

# 市民文芸

## 歌壇

岩崎 聰之介 選

若さらに農継ぐ事を強ふるなく我も老いづき  
農地を離る 川村 静恵  
秋たけてひとまず終りの畑仕事はるの配りを  
目で追つてみる 阿部みさ子  
まなうらにわが春の庭浮かべつつ小春日和を  
チューリップ植う 高子うこん  
連作の失敗あり実らざれば俄百姓のわれは落  
ちこむ 斎藤 典子  
コンバイン普及の速さ目ざましく稲架稲杭は  
過去の風物 四竈 英夫  
刈り終へし稲束を夫と舟に積み泥田運びしは  
若かりし頃 平間 久子  
突然に音信不通の旧友を九十二歳の義母は案  
じて止まぬ 鈴木 茂子  
描きゆく古き街並夕映えていつしか入りゆく  
童の世界 石田みどり  
風もなき朝に散りくる紅葉にも別れの言葉微  
かなる音 大庭 良子  
冬を越し咲けと祈らむシクラメン亡夫好みし  
花にてあれば 鎌田ねい子

## 俳壇

遠藤 秋尾 選

評 一首目、哀感を漂わせつつ、あるべくし  
て在る今をうたう。  
二首目、結句「目で追つてみる」に、健康で  
活動的な姿勢が、ひとつひとつ思われてくる。  
三首目、優しい営みが伝わる。小さな命た  
ちと共に春を待つ作者だ。

花嫁の出来あがりたる野菊晴 山家 弘子  
屋根根根に霜の粧ひ盆地町 岩澤 伍峯  
今年又賀状の住所書ける幸 阿部はぎの  
朝明けの二たび三たび雁翔ちぬ 服部 忠孝  
屋根瓦ひかり流るる初時雨 岩松 隆志

## 柳壇

四電 英夫 選

人の世に糞虫として吹かれをり 跡部祐三郎  
ふわふわと落葉踏みしめ古賀の碑へ  
コンバクト吐く息も今朝の冬 福原 峯子  
蝦夷穴の口を揃えて長閑なり 斎藤 典子  
ケアハウス紅葉の山をめぐるせり 川村 静恵  
跡部 祐子

評 一句目、花嫁衣装に身を包み、きれいに  
なった花嫁御寮が出来上がった。輝くような  
美しさに、天気も上々の野菊晴である。幸せ  
でありますように。  
二句目、城下町白石であろう。霜は貧富の  
差などつけない。等しく屋根屋根を化粧する。  
三句目、一年の何と早いことか。でも、今  
年も健康で年賀状を書けることに、何よりも  
幸せを感じておられる。

新米はおかずいらすの美味さなり 高子うこん  
老い二人残高ゼロの年金日 斎藤 典子  
名刺などいらぬ仕事で今を生き 水戸 光穂  
ここからが大事とびしやりに念を押す 大庭 良子  
意識せず体力おちて葉ふえ 草野 清  
リサイクル着物も服も陽の目見る 遠藤 行夫  
給付金花の咲かない灰をまき 阿部みさ子  
内定の取り消し相次ぐ不況風 山田 守  
習いたて何度よんでも句にならず 宗像 孝喜  
高橋ヨウ子

## 俳壇

四電 英夫 選

評 一句目、痛、脳卒中、心筋梗塞が死亡率  
の高い3大疾病と言われている。これをなく  
すことは、人類永遠の課題か。  
二句目、新米はおかずがなくても食が進む。  
瑞穂の国の恵みに感謝。国内自給率100%  
は米だけ。でも、食べ過ぎには用心。  
三句目、儉ましく暮らす年金生活。残高が  
マイナスにならなければ十分。「残高0でも笑  
顔があれば、家庭円満我が宝」(トメ)

# “学び”は、世代の垣根を越えて

## ～第16回白石市生涯学習フェスティバル事業～



市民の生涯学習の祭典、生涯学習フェスティバル。本年も11月23日に「戊辰戦争140年in白石」がホワイトキューブで、12月7日に「あきらちゃん&ラーメンちゃんクリスマス子育てふれあいコンサート」が中央公民館で開催され、それぞれ500名を超える来場者で盛り上がりしました。

写真①/250組、500名を超える親子が参加したクリスマス子育てふれあいコンサート。写真左がラーメンちゃん、写真右があきらちゃん。  
写真②/誕生日ごとにステージでハッピーバースデーダンス!

写真③/最後は、参加者全員でラーメン体操!  
写真④・⑤/500名を超える歴史ファンが集まった「戊辰戦争140年in白石」。初めに歴史家・作家の加来耕三氏が、「奥羽越列藩同盟の歴史的意義」をテーマに、基調講演を実施。軽妙なトークで来場者を魅了。  
写真⑥/基調講演と同じテーマで行われたシンポジウム。作家の星亮一氏をコーディネーターに迎え、奥羽越列藩同盟に加盟した自治体などの代表者と、会盟の地・白石の風間市長がパネリストになり「この同盟がどのような意味を持つのか、また、東北人として今後、どのように考え、行動していくべきか」について、熱心に討論。

# International Corner

## 国際コーナー



### 文化の日に100万ドルの夜景

世界の中で、ディズニールランドや伝統的なナイトマーケット、高級ブランドショップなど、いわゆる100万ドルの夜景をそろえた、イギリスと中国の2つの文化が混在する場所があることをご存じですか？ それは香港です。香港は日本からとても近いですし、小さくて観光しやすいので、11月上旬の連休中に旅行してきました。

まず驚いたのは、トイレへ行く際、おしほりしてくれる人がいるのですが、その人にもチップをあげる習慣があること。このため、どこを歩いても、必ずお釣りを財布と別のポケットに入れることが一般的です。次に驚いたのは、地震がないところなので、ビルを建てる際は、鉄筋の代わりに、最初に竹で作るといふこと。しかも、大工さんは安全ロープなど使わず、高いところで作業し、万一落ちたとしても、保険金が下りないのです！しかし、それも普通のことなので、大工さんは何も考えず、平気でその場所で仕事を頑張っていました。

それから、香港といえば、やはりあれですね。そう、ヤムチャ。私は、なるべくたくさん蒸しギョーザを試したいと思い、100種類以上のヤムチャがあるレストラ

ンに食べに行きました。デザートは、お決まりのマンゴープリンでしたが、飲み物は何と、コーヒーと紅茶が混ざった、現地の大人気メニューを選びました。残念ながら、コーヒーと変わらない味だったので、もしかすると、飲み方を間違えたのでしょうか？今でも謎ですが、結構おいしかったです。また、ほかの店で食べた北京ダックやガチョウの丸揚げも、とてもおいしいものでした。

香港滞在中に、もう一つの文化を体験できました。それは、有名なペニンシュラ・ホテルで午後、イギリス系のお茶とスコーンを取ったことです。皆さんに「あれ、料理中心のお休みでは？」と言われてもおかしくないのですが、ペニンシュラでお茶を取ることは、香港を旅行する人にとって、とてもメジャーなことのようにです。

中国とイギリス、2つのまったく違う文化。香港の面白いポイントは、異なる文化が1カ所に重なり合っていることだと感じました。最後に、香港を旅行したい方へのアドバイスを。ナイトマーケットでの買い物は、安く有名ですが、その際、円に換算する計算で疲れないよう、電卓を持ち歩くことをお勧めします。ではまた！

# まちの話題

## ～あの日、あの時～

# Diary

## 馬牛沼ワークショップ

11月24日、斎川公民館で、馬牛沼ワークショップを開催しました。周辺の森林から注がれる清流を源とする馬牛沼は、斎川地区の農業用水池として非常に重要な役割を果たしており、斎川地区のお米は日本一おいしいとの評価を受けています。

ワークショップでは、地域の農業に欠かせない馬牛沼と周辺の森とのかかわり合いを学び、水辺の美しい環境と景観を守ろうと、地域の小中学生とまちづくり協議会の皆さんなど約50名が参加しました。

講師に宮城県環境審議会委員で宮城県森林インストラクターの柴田町在住の京谷美智子さんを招き、間伐材や押し葉などを使った写真立てやカードを、自然なものだけが持っている美しい色合いや形を上手に生かして、

次々に作り上げていました。2回目のワークショップでは、鳥類観察なども行われ、馬牛沼の美しくそして大切な自然環境について、地域全体で学びました。



▲講師の京谷さんに工作の指導を受ける中学生